

教職員のみなさまへ

令和8年度 岸和田市教育重点施策

～一部抜粋～

2 児童・生徒の「知」の育成 （教育大綱：基本方針2）

(1) 基礎的・基本的な学力の定着

① 家庭学習・自主学習の支援

家庭学習の支援を充実するため、一人一台端末による AIドリル等の活用を推進し、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図ります。

ベネッセコーポレーション
義務教育向け ICT ソフト

ミライシード

令和8年度6月中に運用開始



ドリルパーク

個々に合ったレベル・ペースで、知識の確かな定着や主体的に個人で学ぶ姿勢を支援。



テストパーク

次の学びにつながるデジタルテスト。
先生方の働き方改革と子どもたちの学力向上を支援。



カルテ

ミライシードの学習履歴を活用し、
子どもの自己調整力を育むとともに、先生方の日々の指導と評価を支援。

AIドリル活用が進むことで・・・

【児童・生徒】得意・不得意に合わせた学習→個別最適な学び

【教職員】準備・丸付けなどの業務軽減→子ども・授業のための時間

- 基礎的・基本的な学力の定着
- 個別最適な学習、自分で学習を調整する力の育成
- 思考・判断・表現の質を高める授業の充実

子どもの学びが変わる！

- ① 「できた！」がその場でわかる。解いた瞬間に○×が判定されるため、間違えた理由をその場ですぐに振り返れます。
- ② AIが「つまずき」を自動解析→誤答に応じて、AIが自動でさかのぼった最適問題を提供します。
- ③ テスト実施後、すぐに返却されることで、記憶が新しいうちに間違えた箇所を振り返り、理解の定着につなげることができます。
- ④ ポイントやメダルが貯まるなど、子どもが「自走」するための仕掛けがあります。

教職員の働き方が変わる！

- ① 課題の「自動採点」で業務軽減。出題から採点までシステムが自動完結。教職員は管理画面で状況を確認するだけです。
- ② 一斉配信で「課題準備」は1分以内。数タップでクラスや個別グループへ課題を配信。プリントの印刷・配付の時間がなくなります。
- ③ 単元テストも「自動採点」で業務軽減。出題から採点までシステムが自動完結。日々の小テストやプレテスト等に活用可。準備・印刷・配付の時間がなく、個別のフォローもすぐにできます。
- ④ 子どもの「得意」「不得意」を一瞬で可視化。クラス全体の正答率やつまずきが自動グラフ化。明日の授業の重点ポイントがすぐ分かります。



ドリルパーク

個々に合ったレベル・ペースで、知識の確かな定着や主体的に個人で学ぶ姿勢を支援。



[ドリルパーク 活用ガイド](#)

https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/fansite/start/start_drillpark.html



テストパーク

次の学びにつながるデジタルテスト。
先生方の働き方改革と子どもたちの学力向上を支援。



[テストパーク 活用ガイド](#)

https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/fansite/start/start_testpark.html



カルテ

ミライシードの学習履歴を活用し、
子どもの自己調整力を育むとともに、先生方の日々の指導と評価を支援。



[カルテ活用ガイド](#)

https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/fansite/start/start_karte.html

ICTサポート ONLINE

いつでも何度でも相談可能

簡単な操作方法から ICT 活用支援、アプリ操作支援、授業提案までサポート

オンラインでの研修や相談
会には、学校単位、少人数
単位で申し込み可能。
※事前予約が必要



メタバース空間を活用し、
予約なしですぐに相談。
簡単な操作や授業での活用
法、ICT 機器についても気
軽に聞ける。

活用例



ドリルパーク

個々に合ったレベル・ペースで、知識の確かな定着や主体的に個人で学ぶ姿勢を支援。

- ・ 朝の会や帰りの会で 10 分ドリル
 - ・ 漢字なぞり練習(筆順判定も)
 - ・ 授業の終わりの振り返り 5 分ドリル
 - ・ 授業のすき間時間ドリル
 - ・ 週に 1 回ドリル宿題
 - ・ 週末の宿題(範囲指定せず、ポイント数指定)
 - ・ 長期休業中の宿題(教職員選択 or 自動選択)
 - ・ テスト前の AI 復習タイム
 - ・ 中学生向け定期テスト対策ドリル
 - ・ 中学生向け入試力試しセレクション
- 学年別・時期別にその時点で解ける入試問題がセレクト



テストパーク

次の学びにつながるデジタルテスト。
先生方の働き方改革と子どもたちの学力向上を支援。

- ・ 授業冒頭 5 分の前時の振り返り
- ・ 単元の終わりの 5 分間チェック
- ・ 前時の振り返り小テスト
- ・ 小学生向け漢字テスト
- ・ 単元テスト
- ・ 学期、学年の復習
- ・ 補欠の際の一斉課題
- ・ CBT 対応問題

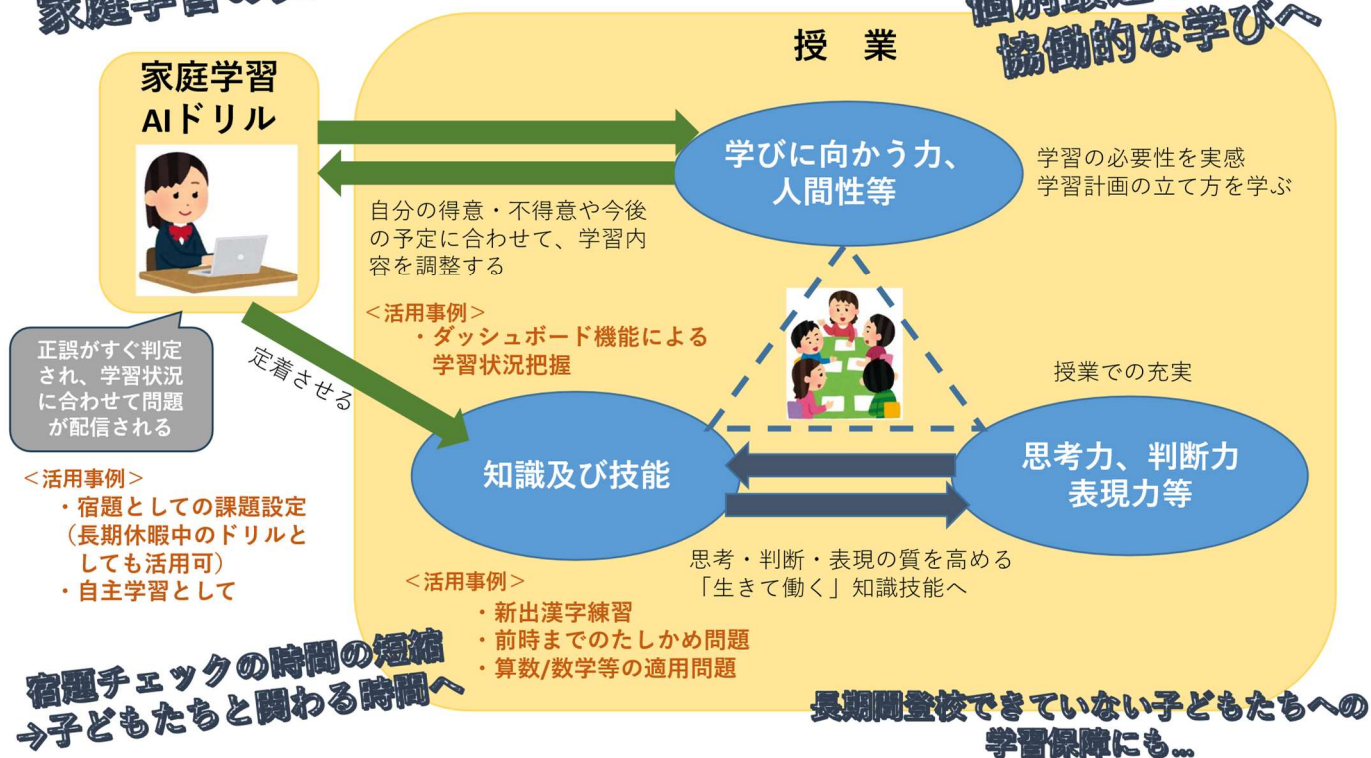
子どもたちに『個別最適な学び』を

教職員が子どもと向き合う時間をより長く

案

一人一人に最適な
家庭学習の実現へ

個別最適な学びと
協働的な学びへ



活用ステップイメージ

目標：全員が週1回を目標にログインし、体験する。

活用：

- ・まずは子どもたちに体感させる。
- ・先生から配信された「ドリルパーク」の課題を解かせる。
- ・ログインして1回10分ほどで、「ドリルパーク」を解かせる。
- ・ポイントがたまることを体験させる。

【ステップ1】

まずは「触ってみる」期間/学校ごとに無理のないペースで、システムに慣れる期間
6月～7月（1学期中）

目標：先生が配信し、子どもが家庭や学校で答える 流れを経験する。

活用：

- ・先生から配信された「ドリルパーク」宿題や課題を週に1回以上取り組ませる。
- ・単元の終わりに、「テストパーク」を使って10分～15分のミニテストをさせる。

(中)単元の振り返りや定期テスト前の学習に活用させる。

【ステップ2】

宿題や小テスト、授業内の予習・復習で「部分的に使う」期間
夏休み～12月（2学期）

目標：授業の隙間時間や、個別学習、振り返りとして日常使いする。

活用：

- ・授業や課題が早く終わった際に、自習としてドリルに取り組ませる。
- ・授業内での個別最適な学びの場面で活用させる。
- ・予習、復習で活用する。
- ・朝学習などの帯時間で活用させる。

【ステップ3】

日常的な活用へ取り入れる期間
1月～3月（3学期以降）